産業構造審議会 地域経済産業分科会 地域生活維持政策小委員会（第1回）
議事要旨

日時：令和7年10月22日（水）10時00分 ～ 12時00分
場所：経済産業省本館17階　国際会議室及びWeb開催（Microsoft Teams）

委員：浜口委員長、伊藤委員、小野委員、菰田委員、永沼委員、水上委員　※委員は50音順
オブザーバー：
内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局、総務省 自治行政局地域力創造グループ地域政策課、農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部食品流通課、国土交通省 総合政策局政策課、物流・自動車局貨物流通事業課、物流・自動車局旅客課、物流・自動車局自動車整備課、厚生労働省 政策統括官付政策統括室、金融庁監督局銀行第二課、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本商工会議所、全国商工会連合会、第二地方銀行協会、全国信用金庫協会

議題
（1）人口減少時代の地域における生活維持関連サービスの供給の持続化に向けた政策の検討
（2）有識者ヒアリング
・人口減少時代における地域のエッセンシャルサービスの課題
・「移動」から考えるエッセンシャルサービス
・人口減少地域における生活必需品小売（エッセンシャルサービス） の担い手をめぐる課題と対応

議事要旨
上記議題（1）について事務局より説明。
上記議題（2）について有識者より説明。

討議における委員からの主な意見は以下のとおり。
○ 人口減少がもたらす事実を国民に広く認識してもらうことが重要。10年、20年、50年先を考えてイメージすることがスタート地点。
○ エッセンシャルサービスの範囲を考えるとき、一般に医療・介護を想起するエッセンシャルワークとは異なるものという整理が必要ではないか。
○ 地域でのエッセンシャルサービスを検討するに当たっては、公共と民間の役割を切り分ける視点が重要。また、公が支え手に報酬を付与して供給を維持するというのもあるのではないか。
○ 2040年代は東京都でも人口減少に転じるとされている。人手不足の課題は、都市・地方の格差の問題ではなく、日本全体のマクロな中長期課題といえる。
○ この分野は政府の政策が実績を挙げているとは言いがたい。地域の現場をみている他省庁が必死にやっている中で、経産省がようやく現場の政策課題に目を向けた。課題解決に向けて、省庁間の縦割りを解消し、横の連携を強化して取り組むべき。
○ 地域の中で頑張っていこうというメッセージも重要であるが、人口減少時代には、広域的な視点から、ネット販売やラストワンマイル物流による配送の重要性も増している。
○ エッセンシャルサービスは幅広い概念。その中で、いかに消費者に効率的にサービスを届けるか、小さな市場を含めていかにサービスを供給するか。
○ 地域のエッセンシャルサービスの供給が不足する背景は、公では財政制約、民は市場縮小。採算性維持と担い手の確保が重要。経産省の政策として取り組むのであれば採算性向上の支援がある。このほか、規制緩和など必要なことがあれば、新たに検討していく必要。

○　地域の持続可能な経済社会の発展には、住民の巻き込みや互酬性経済などネットワーク型の仕組みづくりが重要。
○　エッセンシャルサービスの分業・協業に可能性があるのではないか。タスクベースで見直し、オペレーションの機械化や事務の AI 化などテクノロジーを活用し、業務を効率化した上で、コミュニケーションに人を充てるなどすれば、労働力の供給制約の解消も期待できる。
○　地域住民や事業者の内発的動機付けや、生活者の活気が大事。一人ひとりの能力開発も重要。これらを推進するに当たって、ガバナンスを誰が担うかは地域の状況によって様々ではないか。
○　プラットフォームとなる事業主体をつくった後、損益分岐点を越え続ける持続性の確保が重要。複数のエッセンシャルサービスの事業を行うことは、トップラインを拡げるという意味でも可能性がある。
○　エッセンシャルサービスの維持という課題の解決においても、強力に推進する個人の存在が大事。現状はこうした特定の個人に依存しすぎており、個人の力を仕組み化・制度化していく必要がある。
○　協同的な経済活動を進める上では、多様な声や担い手の想いを調整しつつ、ガバナンスをどう働かせていくかが重要。
○　エッセンシャルサービスの供給の集約のあり方を検討する方向性は、その地域の需要に対応していく、という顧客目線で考えるとよい。
○　その地域内に立地する必要がある生活必需品は何かを考えるとき、必ずしもフルスペックが揃う必要はないのかもしれない。
○　事業の核となるプロフィットセンターを持つことで、複数のエッセンシャルサービス提供が可能となる。
○　移動の確保は、自己責任か公的責任か。交通に関するエッセンシャルサービスをみるときに大事な視点。

問い合わせ先
経済産業政策局　総務課
電話：03-3501-1674